

「点在する場所」

佐藤 悦子

出品番号：7

私は‘そこに在る’ということを出発点として、写真の成り立ちに関係の深い絵画的な視点から、私の目を通して生じる事物と、それを取り巻く環境との感覚的な関わりを求めるために制作をしている。

展示作品は、身の周りの日用品を型取りして石膏像を作り、それを部屋の風景として再構成して撮影したものである。

複製元の日用品は、主に古着や古本など他者を経由したものを集め、よって作品にはルーツの異なるいくつかの場所が混在している。

複製された石膏像は、元の日用品と姿かたちは同じであるが、その意味や機能は剥奪され、ただの塊となってしまう。物としてそこに実在はしていても、何の役にも立たない、意味の無いものへと変容した姿は偽りの像であり、虚像である。

しかし、日用品に物の記憶が刻まれる様に、複製された石膏像にもその記憶は写し取られる。時間と共に美化され、またその逆も同様に、常に変容されがちな記憶は曖昧でもろく、モチーフである石膏像の壊れやすさに繋がる。

本作品では、日用品の個人的経験と部屋を俯瞰して見た時に生じる普遍性という相反する性質を共存させている。それぞれのイメージに個々の記憶と全体的感覚とを同時に取り込むことにより、その境界を揺るがし、‘在る’ことへの探求を深めたいと思う。

展示風景

